

GEOTETS工法研究会「技術講習会 In FUKUOKA」開く 官庁職員や業界技術者ら約70人が技術工法や予防技術を学ぶ



GEOTETS工法やインフラ予防技術などを学んだ「技術講習会」

GEOTETS工法研究会（京都事務所）の「技術講習会 In FUKUOKA」は24日、福岡市のアクロス福岡で開催した。講習会には官庁職員や業界技術者ら約70人（WEB参加）が出席。SDGsに貢献するGEOTETS工法や建設DXを先導するインフラ予防技術等について学んだほか、各講義に関しての意見交換等が行われた。

第1部では、国交省道路防災ドクターとして東九州高速道路の重金属処理・地すべり対策等やNPO「グリーンイノベーション宮崎」の顧問として土木技術向上活動に従事している宮崎大学名誉教授の横田漠工学博士が「重金属の発生とその不溶化について」。第2部は京都市役所を定年退職後、令和3年に㈱Civil Assist設立、GEOTETS工法の研究開発等を担当するGEOTETS工法研究会顧問の西靖彦氏が「社会課題解決に向けた新たな研究について、本工法を活用した環境対策（国土交通省SBIR研究3年連続採択）」と題して講演。

第3部は、2019年に東北大学発ベンチャーとして㈱XMATを創業。経済産業省の“TOHOKU DX大賞2023”製品・サービス部門最優秀賞を受賞。東北大学未来科学技術共同研究センター特任教授で、㈱XMATの面政也代表取締役が「非破壊検査と拡張現実技術を融合したインフラ点検システム」について講義。参加者はメモを取るなど熱心に聴講した。講習会の終了後は各講義に対しての意見交換が行われ、お互いの交流を深めた。